

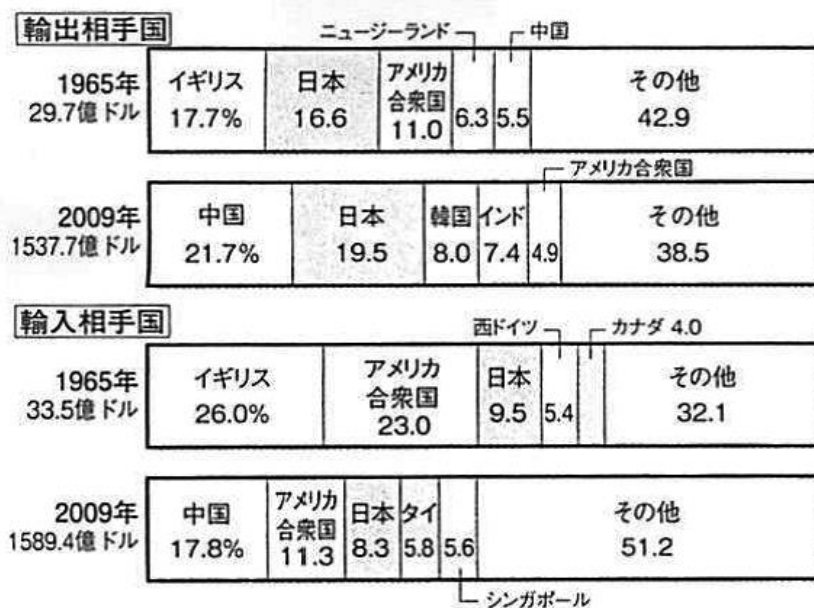
地誌 第37回 オセアニア地誌(2)「貿易・日豪関係」

○今回のポイント

モノや人の移動で強まるアジアとの結びつき

アジア・太平洋圏の一員として

(1)イギリス連邦からアジア・太平洋へ



○1960年代までの貿易相手国
→オーストラリアはイギリス国王を君主に抱くイギリス連邦の一員である。そのため、60年代までは[①]が最大の貿易相手国であった。

○イギリス[②]加盟(1973)
→19世紀まで世界の覇権国はイギリス。だが2度の世界大戦によって弱体化し植民地帝国は解体。ヨーロッパでも[③]を結成してECに対抗しようとしたが方針転換。73年にECに加盟、結びつきを強める政策を取った。

○現在の貿易相手国
→イギリスのEC加盟により、オーストラリアの主要貿易相手国はアジア・太平洋圏への国々へ変化。中でも[④]の割合が増加している。

(2)オーストラリアにみられるアジア諸地域との関係

- ・海外旅行→タイ、インドネシアなど東南アジア、インドをはじめとする南アジア。
- ・[⑤]の形成→シドニー、メルボルン、アデレードなどの大都市で中国系の[⑥]の他、韓国系やベトナム系の居住地が形成される。

(3)アジア諸地域にみられるオーストラリアとの関係

- ・オーストラリアからの[⑦]の空輸
- シンガポール、インドネシアなど東南アジアの国々で、ミルク、バターなどの乳製品、ハム、ソーセージなどの肉類や缶詰など、新鮮さが要求される生鮮食品などが毎日のように[⑧]されている。

(4)アジア太平洋経済協力会議([⑨])

- ・提唱国…[⑩]
- ・目的…参加国間の[⑪]の自由化・円滑化をはかるほか、経済、技術協力、参加国間の[⑫]を行う。
- ・[⑬](Trans-Pacific Partnership)…トランス・パシフィック・パートナーシップ。環太平洋戦略的経済連携協定など訳出多数。**加盟国間の完全な貿易の自由化をめざす経済連携協定。発効後は全ての貿易品の関税が完全に撤廃される。**シンガポール、ブルネイ、ニュージーランド、チリの4か国間で発効されている。

オセアニアと日本とのかかわり

(1)オーストラリアの対日本貿易(2009)…日本は第2位の輸出相手国、第3位の輸入相手国

(2)日本の対オーストラリア貿易

○日本の対オーストラリア輸出(2011) 1兆4184億円

- ・[⑭]44.9%、一般機械14.9%、軽油10.6%、バスとトラック8.0%、電気機器5.3%

○日本の対オーストラリア輸入(2011) 4兆5139億円

- ・[⑮]33.4%、[⑯]22.2%、液化天然ガス19.0%、牛肉3.0%、銅鉱2.8%

(3)観光産業

○日本→オーストラリア

- ・日本人向けリゾート開発
→ハワイ(米)、グアム(米)、[⑰](豪)など



○オーストラリア→日本

- ・2000年頃から日本を観光するオーストラリア人の増加
- ・観光目的…北海道や長野への[⑱]
→要因1. カナダやヨーロッパよりも近く、料金も比較的安い
→要因2. 異文化コミュニケーション…温泉や日本の食事などが高い人気!

(4)[⑲]

- ・二国間の協定にもとづき、最長で1年間、若者が異なった文化の中で旅行しながら、両国間の相互理解や交友関係を深めることを目的とした制度。
- ・滞在資金を補うため、現地で[⑳]することが認められている。オーストラリアと日本の間では1980年に締結された。